

ホシムクドリ *Sturnus vulgaris* の知床半島における初記録

藤川 友敬*・柴田 春馬

099-4355 北海道斜里郡斜里町ウトロ東365, 知床ネイチャーオフィス

First Record of the Common Starling *Sturnus vulgaris* from Shiretoko Peninsula, Hokkaido

FUJIKAWA Tomotaka* & SHIBATA Haruma

Shiretoko Nature Office, 365 Utoro-higashi, Shari-chō, Hokkaido 099-4355, Japan *✉fujikawa@sno.co.jp

ホシムクドリ *Sturnus vulgaris* はヨーロッパ西部からトルコにかけて周年分布するムクドリ科の鳥類で、ヨーロッパ東部、スカンジナビア半島、ロシア西部からバイカル湖付近にかけての広い地域で繁殖し、冬季は主にアフリカの地中海沿岸、イラン、中央アジアにかけて渡り越冬する (Brazil 2009; 日本鳥類保護連盟 2002)。日本においては、沖縄や九州南部に数少ない冬鳥または旅鳥として渡来する (高野 2007)。北海道では稀な野鳥で、藤巻 (2012) は道内での記録は9件としている。オホーツク海沿岸地域については、1994年10月29日に、濤沸湖にて1羽観察されたとする記録がある (川崎 1997)。

また、本種は多様な環境に適応し、移入先で大繁殖して定着し生態系へ多大な影響を与えることから、IUCNは外来侵入種ワースト100に選んでいる (IUCN日本委員会, 外来侵入種ワースト100, IUCN日本委員会, <http://www.iucn.jp/species/376-worst100.html/>, 2014年12月16日閲覧)。外来種として影響を受けているのは、北アメリカ、ハワイ、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ共和国である。日本においては少数の越冬、または渡来ということで、現在のところ定着は認められていない。

筆者らは、2014年4月に知床半島中央部でホシムクドリ1羽を観察した。これは知床半島での初

記録であったため、ここに報告する。

最初に確認したのは2014年4月22日午前9–11時で、天候は晴れ、微風であった。観察地点は北海道斜里郡斜里町遠音別村岩宇別の幌別川河口右岸側に位置する草地で、知床国立公園の第一種特別地域にあたる (図1)。筆者らはこの草地内に点在する樹上においてホシムクドリを1羽確認し、目視による観察と写真撮影を行った。

観察中の最短距離は約30 mで、初め周辺でヒグマの目撃があったため、ヒグマ対策の人員が2名でヒグマの追い払いを行っていた。ヒグマの追い払いが終了し、周囲に人がいなくなると地面に降下し、地面に嘴を差し込んでミミズ、あるいは昆虫の幼虫のような細長いものを5–6回採餌するのを観察した。

以後、4月23–24日の2日間、午前9–10時に同地点で本種を確認し、同様の行動が観察された。しかし4月25日以降は確認できなかった。

野外観察および写真から、観察個体は (1) 体長はムクドリ *Strunus cineraceus* と同程度 (2) 体色は黒色で緑色、紫色の光沢がある (3) 頭から背にかけて淡褐色の班があり、腹部には白斑がみられるという特徴があった。これらは日本鳥類保護連盟 (2002) におけるホシムクドリの記載とよく一致した (図2)。

日本鳥類保護連盟 (2002) はホシムクドリの習

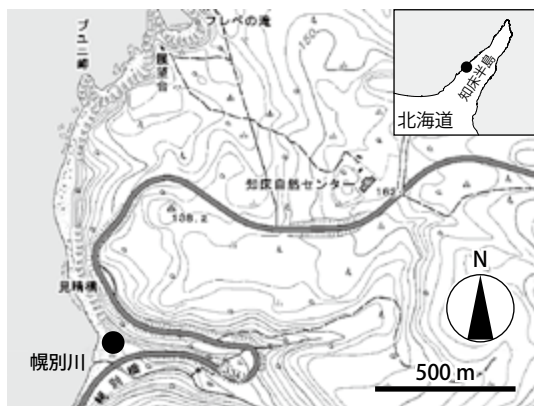


図1. ホシムクドリ *Sturnus vulgaris* の確認地点. 国土地理院の数値地図25000 (地図画像) より「知床五湖」(2007年11月1日発行) を使用.

性についてムクドリに似るとしており, 群れで行動することが推測される. 実際に1997年の濤沸湖での確認もムクドリの群れの中で観察されている(川崎1997). したがって, 今回のように単独で観察されることは稀な事例であると考えられる.

また今回は観察された期間が2014年4月22-24

図2. ホシムクドリ *Sturnus vulgaris*. 2014年4月22日, 藤川友敬撮影.



日と非常に短く, 移動途中の休息地として観察地点周辺を利用したものと推測される. なお, 北海道内でのこれまでの記録では, 浦幌で2005年10月, 2007年10月, 2008年10月と数年以内に再確認されている例がある(藤巻2012). 知床半島でも今後再確認されるかどうか, 注意深く観察したい.

引用文献

- Brazil M. 2009. Birds of east Asia: China, Taiwan, Korea, Japan, and Russia. 528 pp. Princeton University Press, Princeton.
- 藤巻裕蔵. 2012. 北海道鳥類目録(改訂4版). 78 pp. 極東鳥類研究会, 美唄.
- 川崎康弘. 1997. 網走市・小清水町・斜里町におけるオホーツク海沿岸部周辺の鳥類. 知床博物館研究報告18: 19-34.
- 日本鳥類保護連盟. 2002. 鳥630図鑑(増補改訂版). 410 pp.
- 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥(増補改訂版). 374 pp. 日本野鳥の会, 東京.